



はまなこ環境ネットワークの活動を振り返って

はまなこ環境ネットワーク 代表 芥川 知孝



コロナ禍で様々な活動が制限されている今、これまでの活動を簡単に振り返ってみようと思います。はまなこ環境ネットワークは浜名湖の抱える廃船、アオサの腐敗による悪臭、アマモ場の減少などの問題や、3R等の環境課題、企業のISO14001取得等、環境に対する意識の高まりを背景に2005年3月、静岡県の働きかけにより、「協働して活動する場」として設立されました。

設立当初は9,10月を浜名湖環境月間とし、ネットワーク参加グループの協力を得て「はまなこ楽会（交流発表会）」、「はまなこ環境カレッジ」を開催し、浜名湖の現状を「見て、聞いて、考える」活動、清掃活動など連携した活動をスタートさせました。その取り組みを「はまなこ環境通信」により湖の現状を伝えることに努めてきました。

さらに、浜名湖の「改善」活動の基本的な考え方を共有し、活動を活発にするために、当時、注目された「ラムサール条約」の「環境・経済・社会」いずれも重視する「ワイズユース（湖の持続的な利用）」を活動の目標に採用しました。

活動では「浜名湖エコワークショップ」、「エコキッズ体験塾」により子どもたちに環境学習の提供や市民に環境啓発の活動へと拡大していきました。

そして、地域の人たちが湖と共生する浜名湖は、循環型の社会のモデルとなる「里湖」として、陸（人と生活）と湖（生態系と栄養）の関係を大切にする活動へと発展させました。

最近ではSDGsで示されるように、グローバルな動きや、経済的、社会的にも様々な課題と関連し、単純に環境だけでは対応できないほど複雑化しています。その中で、ネットワークの活動は個々の団体の様々な活動を支援する緩やかな連携に移行し現在に至っています。

長年にわたって活動を支え続けていただいた多くの団体、行政、個人の皆様に改めて感謝するとともに、今後とも里海としての浜名湖を守り育てることにご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

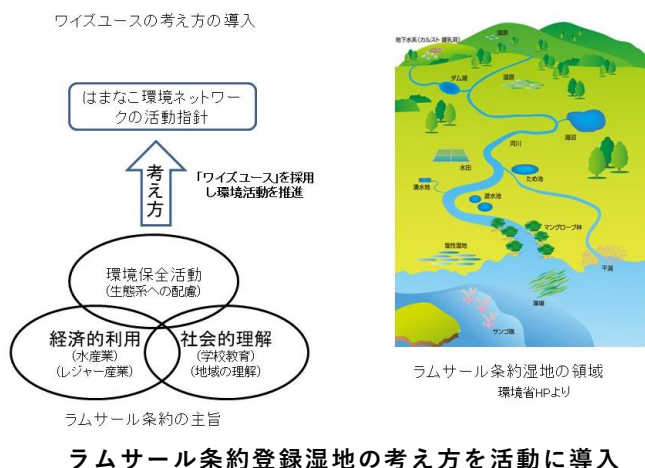


団体相互の情報交換「はまなこ楽会」

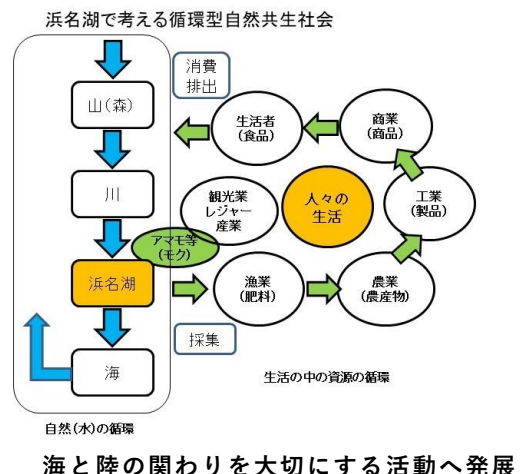


親子で学ぶ「浜名湖エコキッズ体験塾」

浜名湖と関りのある組織との連携活動(図1)



湖と陸のかかわりを大切にする活動(図2)



活動団体紹介1 「NPO法人 DIGtag(ディグダグ)」

■野遊び塾

野遊び塾は、浜名湖畔の自然豊かな環境の中で小学校1年生～6年生を対象に年24回＋合宿4回程度開催しています。今年で20年目を迎え、会費で運営しており、参加者は約30名であります。季節感を大切にしたプログラムを異年齢の仲間たちと共に繰り返し行うことを大切にしています。

活動場所は浜名湖畔や遠州灘、三十ヶ谷の森（浜名湖ユース Hostel跡地）など。活動内容は田んぼ遊びや森探検、釣り大会、浜名川での川遊びや生きもの観察会、海岸のごみ拾い・漂着物調査、貝殻クラフト、焚火料理等を行い、四季折々の自然体験や食、モノづくりなどを行い、育ちあい学び合いの場を提供しています。



自然の中で子どもたちに体験を提供

■三十ヶ谷(みそがや)家族会

地域の里山を地域で育てよう！としてはじまった活動で、会員制で年会費（個人会費3,000円、家族会員5,000円）、1回限りの参加1,000円で第1日曜日に開催し、浜名湖ユース Hostel跡周辺の里山整備を行っています。会には、地域の住民を中心に約40人が登録して、以下のような活動をしています。

- ・里山整備・ザリガニ池の浮き橋維持管理・草刈り・ゴミ拾い
- ・側溝清掃・木々の間伐・歩道整備・持ち寄りピクニック



会員制での里山整備、側溝清掃

■海の大掃除(ビーチクリーン活動)

新居弁天海水浴場、表浜、白須賀海岸などの遠州灘で月1～2回の頻度で海岸のごみ拾い・清掃活動を行っています。この清掃活動は遠州灘の漂着ごみから人の暮らしを考える機会として、浜辺の自然環境ガイドを含め、開催されています。

活動の後には、参加者同士、海でコーヒーを飲みながらの交流会も行われており、マイカップを持参し、参加費1人500円で行われています。

代表理事の佐々木さんは、「募集や情報発信はFaceBookやInstagramなどで発信していますが、近年はごみへの意識が高まり、たくさんの参加者が集まってくれている」とのことでした。



月1～2回行っている海岸清掃活動

■活動に対して一言(伝えたいこと)

- ・各事業の参加者は口コミ、リピーターが多いことが特徴です。ボランティアの要素が強く資金繰りには苦勞しています。
- ・事務所は、新居の金物店の空き家を提供してもらい、「コミュニティースペースタキヤ金物店」として観光案内、情報発信、ワークショップや地域と旅行者の交流の場としても活用しています。

■今後の取組み、抱負

- ・浜名湖周辺の自然環境や地域の価値を守り、楽しみながら続けていくことが重要だと思います。
- ・コロナ禍におけるコミュニティの場の重要性を感じています。時代や社会に沿った対応の中にも自然環境や地域、人との繋がり合いの大切さも伝えていきたいと考えています。

活動団体紹介2 「オイスカ高校」

■マングローブ干潟と清掃活動

浜名湖東岸の花川河口に位置するオイスカ高校では、20年以上前に水質浄化のため、静岡県浜松土木事務所との協働により学校前の湖岸でマングローブを植栽して干潟づくりに取り組んできました。

現在でも毎月2回放課後、クラス単位でマングローブ干潟の清掃を行っています。花川から浜名湖に流れて来るごみが干潟に漂着してかなりのごみが出るためです。ごみの大半はプラスチックごみであり、大変、頭を悩ましています。



学校前の湖岸「マングローブ干潟」

■浜と松プロジェクト

中田島砂丘の保全をはじめ、海岸林・防潮堤植栽保全活動や絶滅危惧種調査、海洋プラスチックごみ、海浜植物調査などを行っています。ダムの影響などもあり砂丘が減少していますが、飛砂を抑える「堆砂垣」の設置や、静岡県・浜松市・オイスカ高校の3者で防潮堤へ植林、維持管理のための管理協定を締結しており、野球部やバレー部の生徒も保全活動に参加しています。



中田島砂丘への堆砂垣設置



海岸部での環境保全活動

また、絶滅危惧種に指定されている「カワラハンミョウ（昆虫）」について、浜松市へ保護の取り組みを行うよう、浜松南高校等と提案をしています。

その他、市民団体と連携して「砂丘クリーン&音楽ライブ」を開き、海岸浸食問題の啓発にも努めており、この活動が認められ、高校生ボランティア・アワード2021で「鎌田賞」を受賞しました。

浜と松プロジェクトの原点は、震災の教訓です。東日本大震災で被災地へ支援に行き、津波の影響で松枯れがひどいので、災害に強く景観豊かな海岸づくりに貢献できる抵抗性クロマツや潮風に強い広葉樹を植えたことでした。地元でも南海トラフ巨大地震の津波災害に備え、抵抗性クロマツを苗から育てて、植樹しています。

浜名湖沿岸でも松枯れが目立つので、抵抗性クロマツを植える場所があれば、植樹したいと考えていますが、公有地には植えられず植林する場所が少なくなっており探しています。

三ヶ日中学校や三ヶ日青年の家と協働して水質浄化のため、アマモ再生やマングローブを植えていく計画がありますがコロナの影響により中断しています。



防潮堤への対抗性クロマツ植樹

三ヶ日中学校や三ヶ日青年の家と協働して水質浄化のため、アマモ再生やマングローブを植えていく計画がありますがコロナの影響により中断しています。

■SDGsと環境活動

これまでは、環境に関して取り組むことに理解を得ることが難しいこともありましたが、SDGsの推進によって、学校として環境活動に取り組みやすくなりました。そのため、市民団体や企業など多様な団体との協働も進んでいます。

■今後の抱負

浜名湖に面している高校として、「浜名湖ごみひろい選手権」を計画しましたがコロナ禍で中断しています。そのため、浜名湖沿岸の学校で行う高校野球大会「浜名湖ベースボールカップ大会」のつながりを活かして、高校生によるごみ拾いイベントを立ち上げたいので協力者を求めています。

また、松の落ち葉や学校食堂の残渣、お菓子の廃棄原料などで堆肥を作り、ご当地野菜を作っており、企業等の協力で売上げを募金活動に役立てているため、今後も販売したいと考えております。

プラスチックごみを学ぶ、考える(浜名湖の水をきれいにする会)

浜名湖の水をきれいにする会では、浜名湖でゴミ拾いと収集したゴミの調査を通し、世界的に問題となっている海洋プラスチックゴミについて環境への影響など、実体験を交えて伝え、問題解決のための行動に結びつけることを目的として、小学生とその保護者が参加する「浜名湖プラスチックゴミ学習会」を開催しております。

令和元年度（館山寺サンビーチ）

令和2年度（弁天島・いかり瀬）

令和3年度（新居弁天海水浴場）



拾ったゴミの中でプラスチックゴミの割合が80%



2020年度 浜名湖プラスチックゴミ学習会
・みんなで海洋プラスチックゴミをなくそう!



令和3年度は、10月16日（土）39名の市民・家族が参加しました。今切体験の里 海湖館に集合し、プラスチックゴミの課題や様々な取り組みの話を聞いてから、新居弁天海水浴場でゴミを拾って、種類別に分類・集計しました。ゴミの86%がプラスチック系ゴミとタバコの吸い殻でした。拾った後は遊船で湖上から湖の景観や環境を学び、弁天島「いかり瀬」に上陸してアマモの状況や生きものを観察しました。



グループ単位でゴミを拾う



拾ったゴミを分類・集計



湖上から湖の環境を見て、生きものを観察

1月15日 恒例！浜名湖環境活動団体交流会の開催(予定)

浜名湖周辺で環境の取り組みをされている団体、企業、学校、行政などが互いの活動を情報交換し、自分たちの活動のヒントを得るための交流会を開催します。ぜひご参加ください。実施した内容は後日WEBでも紹介します。

- 日時 令和4年1月15日（土）13:30～16:30
- 場所 舞阪協働センター 2階 講座室1
- 内容 1) 環境活動団体パネル展等（会場内で展示）
2) 講演会「SDGsによる浜名湖の環境活動」
講師：浜松いわた信用金庫 SDGs推進部 副部長 竹内嘉邦氏
3) 活動紹介（リレートーク）
4) 意見交換

※昨年度の交流会は、新型コロナ対策としてオンライン中心の開催



環境活動団体交流会のイメージ



【事務局への質問・情報提供】

浜名湖の環境に関するデータや活動団体等の情報等をお寄せください。

TEL 053-458-3480 E-mail info@shizuoka-t.net URL <https://hamanako-kankyou.jimdofree.com/>